



“ドアを開けて、部屋にいて！”

カレンタ キラムシリウ

KALENGTA KILAMSILIU

日本へ来てすぐ、まだ研修センターにいたある日の夜、私が寝ていた時のことでした。突然「ドアを開けてください。みなさんドアを開けてください」と誰かが叫んでいるのが聞こえ、私はびっくりして目を覚ましました。そして部屋が揺れていることに気がつきました。地震でした。それは先生がみんなを起こしている声でした。少し怖かったですが、揺れはすぐにおさまったので、疲れていた私は安心してまた横になりました。ですが、先生が言っていたことが気になって、すぐに寝られませんでした。さっき先生は「逃げて」と言わないで、「ドアを開けて」と言っていたのは、どうしてなんだろうかと。

よくわからなかった私はつぎの日先生に、なぜタベ先生は逃げろという代わりにドアを開けるように言っていたのかと聞きました。先生は「地震が起きたらまずドアを開けて、部屋の中にいるんです。安全のためですよ」と説明しました。それは私にとって理解できない話でした。私はインドの北東の出身ですが、そこでもたまに地震があります。そして地震が起きたら、建物が倒れると思ってとにかく逃げます。でから、ドアを開けたら外に出るのが普通だと思っていました。日本の耐震住宅のことをわかっていなかったのです。部屋の中は安全だが、ドアが変形してしまうと開かなくなるので、まず開けて、部屋にいたほうが良いという意味だったとわかりました。私はここから日本

のすごいところに気づきました。それは日本人の何事にも備えるという考え方です。

日本人は問題を想定して準備をしています。地震が多いので、地震に強い建物を建てます。そして、悪い状況を避けるために前もって動きます。地震のときにドアを開けることはまさにそれです。今日本で介護の仕事をして1年ぐらいになりますが、この行動が職場でもいつも見られることがわかりました。スタッフは利用者さんの安全のために、細かいことまでよく考えてお世話をしています。何をする時も慎重に考えて行動しています。食事、入浴、排泄介助のどの場面でもそれが見られます。日本人は「問題が起きたら動く」ではなくて、前もって「問題が起きないように動く」ということを大切にしています。それは素晴らしいことです。そして自分もそう心がけるようになりました。

自分の国はだいじょうぶだろうかと考えます。インドは地震が少ないですが、いつどうなるかわかりません。ですから備える必要があります。地震だけではありません。毎日安心して過ごすことができるように、みんなが少し先を想像し、もっと考えて行動する必要があります。問題が起きてからではなく、問題に備えるということです。自分の国の人たちもそうできるようにってほしいと思います。私はそのために、インドにいる家族や友人に私が日本で見て感じていることを発信しています。

受賞の喜び



カレンタ キラムシリウ

国 籍 インド
職 種 介護
実 習 実 施 者 医療法人社団誠馨会
監 理 団 体 協同組合BMサポートセンター

この度は最優秀賞に選んで頂き、ありがとうございました。選んでくださった審査員の皆様に感謝致します。

私は去年の3月にインドから来ました。来てすぐに地震を経験し、その時日本の建築技術のすごさと日本人の何にでも備えるという考え方を知り、驚きました。そして、大きくインスパイヤーされた私は、ずっとその考え方を大切にしています。

今年、日本語の先生から作文を書いて出してみたらいいと言われた時、ぜひこの話を書いてみたいと思いました。この作文で賞を頂くことができ、本当に嬉しいです。日本語を勉強中の私にとって、この作文を書くことはとても大きな挑戦でした。私を励まし、応援してくださった先生、毎日温かく多くのことを教えてくださっている総泉病院の皆様、生活面を支援してくださっているBM協同組合の皆様には感謝致します。これからもこの「備え」の考え方を大切にしながら、医療と介護の現場で頑張っていきたいと思っています。

指導員のことば

この度は受賞おめでとうございます。

キラムさんは、いつも私達日本人にどう言ったら伝わるかを一呼吸おいてよく考え、一生懸命伝えてくれます。今では患者さんや職員と冗談を交えながら話す余裕も見られ、ご家族からも「外国人職員はみんな礼儀正しくて安心できる」とお言葉を頂くほどです。この言葉を頂いたとき、キラムさんたちの努力がちゃんと認められたのだと、一緒に働く私たちもとても嬉しかったです。

キラムさんは将来、日本の看護師資格を取り看護師として働きたいそうですので、ぜひ頑張って資格を取得してもらいたいと思います。そしてこれからも日本で一緒に働き続けることができれば嬉しいです。

医療法人社団誠馨会 介護指導員

露崎 芳